

木材の美観を損ねる棧木痕(さんぎこん)の改善

【研究のポイント】

木材を乾燥する時に、空気の流れをよくするために木材と木材の間に“棧木(さんぎ)”を置きますが、乾燥後に“棧木痕”(薄い筋状の模様)として残り、美観を損ね商品価値を低下させていました。そこで、棧木痕の生じにくい乾燥方法について研究しました。



“棧木”の使用

乾燥時に木材と木材の間に棧木を置く

棧木痕が残った事例



学校の体育館の壁面



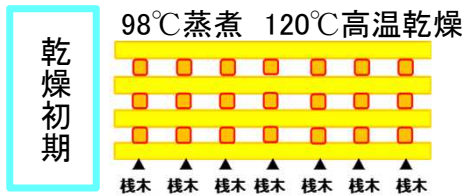
テーブル天板

【研究の成果】

① 棧木痕の発生時期は？

〈試験〉木材乾燥工程を乾燥初期と本乾燥に分け、どの段階で棧木痕が発生するか調べました。

〈結果〉乾燥初期後には、棧木を設置した場所(◀)に棧木痕が見られました。木材に含まれる水分が多く、温度が高い状況下にある乾燥初期に、棧木痕が発生しやすいことがわかりました。

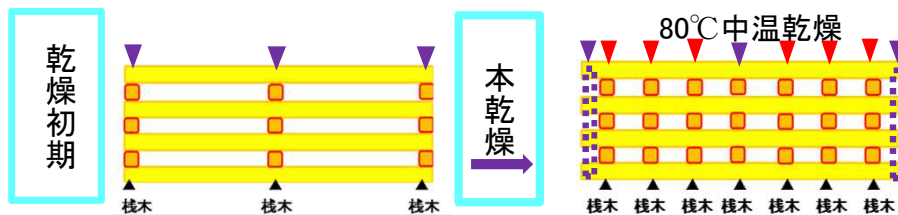


乾燥初期後の棧木痕

② 棧木痕が目立たない乾燥方法は？

〈試験〉木材を乾燥する場合は、材がたわんだり、反ったりすることを防止するために、間隔を狭めて棧木を置くのですが、反りの影響の少ない乾燥初期には、棧木を両端と中央(▶)に配置し、その後の本乾燥では、従来どおりの位置(◀)に棧木を設置しました。

〈結果〉乾燥初期に棧木を設置しなかった場所(▶)には、棧木痕は目立ちませんでした。この方法は簡単に導入できるため、現場での普及が期待されます。



本乾燥後の様子

【生産者の声】

・棧木痕は、商品価値を著しく低下させるのでたいへん困っています。
・棧木痕の発生しやすい乾燥初期の段階では、特に棧木の置き方に注意します。



(株)朝日木工
小笠常務

【連絡先】

担当：林業研究部 木材チーム
TEL：0973-23-2146（問い合わせは 企画指導担当 へ）
住所：日田市大字有田字佐寺原35